

2026年度AO選抜 文学部 地域研究学域
「人文学プロポーズ方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
地域研究学域	23	16	13

2. 第一次選考（ES（エントリーシート）と課題レポート・志望理由書等）

(1) 評価ポイント

エントリーシートについては、調査書に記載された科目の履修状況・成績・評定平均値などによって高校での学習状況を把握し、志望理由ならびに入学後に学びたいと考えている分野やテーマなどを確認しました。その際、地域研究学域の教育課程と関連付けて、どのような学びや目標を学生生活において実現しようと考えているのか、また卒業後の将来計画の展望についても着目しました。

課題レポートについては、地図と(景観)写真を活用した地域調査・研究の論述を課しました。ここでは、高等学校の地理総合(地理探究)で学ぶ地図の読解をはじめとする諸種の技能をふまえて、研究テーマに対応した地図(受験生自身が作成した地図を含む)と写真が用意されているか、読図をとおして地域の特徴が把握されているか、読み解いた内容が論理的に説明されているかなどを、総合的に評価しました。

(2) 解答状況

エントリーシートには、地域研究学域の学びと関連付けて、高校における学習状況、特筆すべき活動、志望動機、将来計画などが、おおむね明確に記述されていました。

課題レポートでは、地図・写真と論述との対応が不十分なものや、地図の配置・大きさに配慮がなく、読図の不可能なものも散見されました。他方で、地理院地図などから対象地域を単に切り出してくるのではなく、受験生自らが主題図を作成し、その読図をとおして地理的事象を的確かつ説得的に説明したり、関連する図表も作成したりするなど、論述の展開を補足する創意工夫に満ちたレポートも一定数ありました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

地域研究学域を志望する動機のほか、地域調査・研究に必要な基礎学力、探究するテーマ設定の具体性、それらにもとづく学習・研究計画が設計できているかを評価しました。また、質問に対する適切な受け答えができているかも評価の対象としました。

(2) 解答状況

多くの受験者が地域研究学域の教育課程を念頭におきつつ、自身の興味関心にそったテーマを設定し、教育課程の段階をふんだ学習・研究計画を設定していることが、解答からうかがわれま

した。ただし、2 回生以降の専攻教育を意識するなかで、特定の科目のシラバスに拘泥するなどして、学域・専攻教育の全体が意識されていない解答も少なからず見受けられました。

(3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

探究したいテーマに関する 10 分間のプレゼンテーションを実施し、その後、プレゼンテーションの内容に関する質疑応答を行いました。つづく面接では、志望動機、入学後の学習・研究計画などについて、より具体的な説明を求めました。

(4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

地域研究学域では、文字どおり地域を研究するための問いの立て方、問題意識のもちよう、さらには研究課題の設定の適切性が重要となるため、これまでの学習をふまえて主体的に地域研究に取り組むことのできる資質を有しているかどうかを判断するべく出題しました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

地域研究とは、国内外のさまざまな地域を研究し、それぞれの固有性や特性を総合的に把握することを目指して、地域のありようを理解するための学問領域です。したがって、つね日ごろから、身近な地域はもとより世界で起きている種々の事象にも興味関心を寄せて、自分自身で観察ないし考えてみることを肝要となります。さまざまな地域で起きている事象を想像・洞察する力を養うべく、視野をひろく持ち、必要な知識・技能を獲得してください。

受験にあたっては、文章力・プレゼンテーション能力を高めておくことも求められます。とくに課題レポートの作成にあたっては、研究テーマに関して的確に文章表現できる力が必要になるとともに、地図や写真にも一工夫を加えれば、より充実した内容になると思われます。

以上